

偏差値 5 以上アップさせ希望高校の合格を果たすには
－効果の上がる受験勉強の方法を身につけよう－

開倫塾
塾長 林 明夫

はじめに－自己紹介

1. 受験生としての自覚をもって勉強すること－そのために考えた方がよいこととは－

- (1)何のために高校入試を受けるのか
- (2)何のために高校に進学をするのか
- (3)高校に進学して何を学ぶのか
- (4)高校卒業後何をするのか(大学等へ進学か就職か)
- (5)社会に出て何をするのか
- (6)何のために働くのか
- (7)どのような一生を送りたいのか
- (8)死んだ後、後の世に何を残したいか

＊大切な時間なので、「何のために生きるのか」、「何のために今受験勉強をするのか」など
真剣に自分自身の力で考えた上で「受験生としての自覚」をもって勉強しよう。

＊自分の考えが決まったら短いことばにまとめ、「ノート」に書いて何回も何回も見直す、
読み直すこと。机の上にも書いておき、毎日確認。自分に言い聞かせること。

2. 偏差値5以上アップさせ希望高校(一流校)の合格を果たすには

- (1)「効果の上がる受験勉強の方法」を身につけよう

$$\boxed{\text{学習効果}} = \boxed{\text{本人の自覚}} \times \boxed{\text{学習方法}} \times \boxed{\text{学習時間}}$$

これはかけ算なので、3つのうちどれかがゼロか極端に少ない数字だと他の1つか2つが多
くても(よくても)あまり効果は上がらない。3つともバランスよく備わっていることが大事。

- (2)開倫塾の授業(夏期講習会や8月分授業、9月からの平常授業)で、受験に出題される範囲
・内容についての「理解」(うんなるほどとよくわかること)を

①授業中は先生の顔を真剣に見つめて、一言も聞き漏らさないよう熱心に授業に臨むこと。

《熱心に授業を受けることができるのは大事な能力》

②必要なことは、どんどんノートにメモを取り続けること。

《ノートにメモをし続けるのは大事な能力》

③よくわからないことは積極的に質問し、わからないことをなくすこと。

《よくわからないことを質問できるのは大事な能力》

④授業時間少し前に、開倫塾に到着すること。

授業中は、おしゃべりは一切しないこと。居眠りもしないこと。忘れ物もしないこと。

《これらはすべて「能力」》

＊授業は何のために受けるのか、よくわからないことを「理解」するため。

何がよくわからないかを授業前にはっきりさせるのが「予習」。

(3)開倫塾の授業(夏期講習会や8月分授業、9月からの平常授業)で、よくわからないことを「うんなるほど」と十分に「理解」した後、自分の力でやり抜くべきこととは何か。「定着」つまり「うんなるほど」と十分に「理解」したことを確実に身につけることです。

＊いくら記憶力がよい人でも、「授業中」に「うんなるほど」とよく「理解」しても、時間がたつとどんどん忘れてしまうことが多い。「忘れる」ことをできるだけ少なくするために「確実に身につける」ための3つの「練習」が大事と開倫塾では考えます。

①音読練習

(ア)開倫塾の授業で一度「うんなるほど」と十分に「理解」した内容を、開倫塾の授業終了後、繰り返し何回も何十回も大きな声を出して読むのが「音読」。

(イ)「何も見ないでスラスラ口をついて出てくるまで覚える」こと。正確に覚えないと点になりません。うろ覚えでは点にならず、偏差値は大幅に上がりません。

(ウ)大きな声が出しにくい時には、自分の耳に聞こえるくらいの小さな声でも、もちろんO.K.とにかく何回も、何十回も声を出して読み、何も見ないでスラスラ言えるまでにすること。覚えること。

②書き取り練習

(ア)「音読練習」をして「何も見ないでスラスラ口をついて言えるようになった」内容を、「正確に楷書(教科書の書体)で書ける」ようになるまで、何回も、何十回も書き取る練習、「書き取り練習」を繰り返すこと。

(イ)テストでは正確に書くことが求められることが多いので、書き取り練習は欠かせません。書けなければ点にならないのですから、書く練習をどんどんしましょう。

(ウ)ながめているだけでは、偏差値は大幅に上がりません。

③計算・問題練習

(ア)開倫塾の授業中に行い、「うんなるほど」とよく「理解」できた計算や問題を、授業終了後必ず一回はやり直しましょう。

(イ)やり直して、なぜそのような解答になるのかよくわからないようなら、自分の力でよく考えて下さい。自分の力でいくら考えてもよくわからなければ、開倫塾の先生に遠慮なく質問して下さいね。わからないままに放置しないことが一番大事です。

(ウ)なぜそのような解答になるか、「うんなるほど」と十分に「理解」できた「計算」や「問題」は、「計算や問題を見た瞬間に「パッパッパッ」と正解が出るくらいまで何回も何十回もやり直す練習をすること」。これが「計算・問題練習」です。

(エ)高校入試をはじめ、テストで一番大切なことは、「難しい問題に挑戦する時間」です。今までにやったことのない初めて出会った問題や考えさせるような問題、つまり難しい問題に挑戦するには時間が必要です。そのための時間をどう確保するか。今までやったことのある問題、なぜそのような解答になるのか「うんなるほど」と十分に「理解」している問題は、問題を見た瞬間に「パッパッパッ」と正解が出てくるようにしておくこと。これが大事です。そのために絶大な効果を発揮するのが「計算・問題練習」です。

＊以上、「音読練習」、「書き取り練習」、「計算・問題練習」を「定着のための3大練習」と開倫塾では呼びます。「練習は不可能を可能にする」。この「定着のための3大練習」だけでも学力は正確に身につきますので、偏差値は大幅に向上します。暑い夏ですから歯を食いしばって練習を繰り返して下さい。努力は必ず報われます。

3. 「理解」「定着のための3大練習」が進んだら何をするか。「応用力」を身につけることです。

(1) 「応用力」とは「模擬試験や本番の入学試験などテストで希望校に合格できるだけの十分な点数(偏差値)が取れること」です。

(2) そのためにやるべきことは何か。「過去問」(その模擬試験や本番の入学試験で出題された問題)を繰り返し、何回も同じ問題をやり直し、できない問題をなくすことです。

(3) 最低5年分、できれば10年分、問題を見た瞬間に正解が「パッパッパッ」と出るようになるまで「過去問」をやり直して下さい。

4. おわりに

(1) 勉強していてわからない「ことば」があったら、ためらわず「辞書」を引いて、その「ことば」がどのような意味か調べ、教科書やノート、ポストイットに必ずメモしてその意味を覚える努力をして下さい。

＊「国語辞典」と「英和辞典」はいつも「カバン」の中に入れておくことが「成績の大幅向上」「偏差値を飛躍的に上げる」絶対条件です。自分がよく知っている「ことば」の数を自分の力で増やすことができるのは、大切な「能力」です。

(2) 学力の高い人は、「読書による思慮深さ」を身につけています。

① スピードを上げて読む必要は全くありません。自分の人生にとって大切だと思われる本、「この本は」という本をよく選び、この夏休みにじっくり読み込んで下さい。

② これから受験まで、毎月1冊の本をじっくり読み込むことをお勧めします。

③ 読んでいて「この文は」と思われる文章に出会ったら、「書き抜き読書ノート」に書き抜いておきましょう。折に触れて、何回も何回も自分で書き抜いた文章を読み返すと、自分のものになります。自分の「人格」の一部になることもあります。よい文章をお選び下さい。

＊読書による思慮深さを身につけることができるのも大切な能力です。

(3)新聞を読んで考えること、批判的精神を身につけること

- ①「小学生は毎日 20 分以上、中学生は毎日 40 分以上、高校生は毎日 1 時間以上、新聞を読んで考えよう」が開倫塾の考えです。
- ②新聞には世の中の出来事^{できごと}が毎日、毎日報道されています。その出来事をたとえ小学生、中学生、高校生でもしっかり新聞を通して読み、自分の力でなぜこのようなことが報道されるのかを考えることが生きていく上で大切です。入試の面接試験や論文(作文)にも役立ちます。
- ③入試では大量の文章を短い時間に正確に読み、正解を自分の力で考えることが必要ですので、新聞は大量の文章を短い時間に読むよい練習となります。

(4)受験を通して「自己責任」「自助努力」「自分の未来は自分で切り開く」ことの大切さを学んで下さい。

- ①高校入試の内容は、高校の勉強は中学の勉強の上に成り立っているので、高校に進学してすべて役に立ちます。
- ②世の中に出てもすべて役に立ちます。役に立たない内容は 1 つもありません。どうか自信をもって、また、誇りをもって受験勉強に励んで下さい。

(5)健康第一(心の健康、身体の健康)

①規則正しい生活を

「(ア)8 時間は睡眠を、(イ)4 ～ 6 時間は生活のための時間を、(ウ)それ以外の 10 ～ 12 時間は勉強、勉強、また勉強の生活を」

＊「学習時間の長さ」が偏差値の大幅 up の上で大事

②家族への感謝の心を忘れずに

(ア)受験勉強ができるのは家族の協力のお陰。絶えず感謝を

(イ)自分でできることは自分です

(ウ)5S(整理・整頓・清掃・清潔・躰)を

(エ)躰とは「美しい立居振舞い」、「敬語表現を含む言葉遣い^{ことばづか}」

＊友情も育もう

以上

御清聴を感謝します

(質問があったらして下さいね)